

Message from  
旗手絵美子 さま

アイホールは人生で一番足を運んだ劇場だ。出会いは「ルカ追走」という作品。(今でも大好きで再演して欲しい)それから出産するまで足繁く通った。最近、アイホールのスタッフだったYさんに言われて思い出した事がある。毎年お手伝いしていた夏休み子ども演劇WS、妊娠した夏は見学させてもらった。ウォーミングアップの鬼ごっこにだけ参加したのだから、張り切りすぎた私は足がもつれて転けてしまった。赤ちゃんに何かあったら…と不安 100% になった私を、当時一緒に劇団をしていた K ちゃんが私以上に心配していたのを、Y さんは覚えていると話してくれた。その劇団は無期限休団で、なくなるとは思いたくなかった当時の私達。メンバー 3 人でホールで行われたチャリティーフリマに出た事もあったなあ。太陽族の森本さんがおもちゃのウクレレを買ってくれたのを覚えている。覚えている事も忘れてしまった事もありすぎるアイホール。

AI-HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
しさま

私はいいむろさんのマイムが印象に残っています。「ゾウをのみこんだウワバミの絵」も好きですが、「バタフライエフェクト」素敵ですし、「ダウト」はとても惹き込まれました。同じホールと思えないような演出もいつもワクワクさせられました。

AI-HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
すしお さま

「アイフェス!!」に中高 6 年、更にお手伝いスタッフなどで関わらせてもらいました。そこで出会った演劇人の方やスタッフさんたちはみなさん、私たちの拙い作品に真剣に向き合ってくれて、本当にありがたかったです。アイフェスはコンクールと違い、好きなことを思い切りできる環境だったので、非常に恵まれた経験をさせていただいたと思います。

AI-HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
ゆっこ さま

伊丹想流私塾では塾長や師範から戯曲の書き方だけでなく、劇作家の哲学や心構えを学びました。そして卒塾公演ではプロの演出家や役者の方たちが素人同然の私の戯曲に真摯に向き合ってくれる姿に感銘を受けました。自分の書いた戯曲が初めて上演された瞬間の感動は忘れられません。演劇との関わり方について新たな発見をもたらしてくれた、アイホールに心から感謝です!

AI-HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
映見集紀 さま

アイホールは、僕を『どくりつこどもの国』で殺陣師に、そして土曜日のワークショップ「アクション講座」で講師へと育ててくれました。ここは僕の原点であり、ホームであり、聖地だと思っています。その想いは、きっとこれからも変わりません。たくさんの作品と出会わせてくださり、数えきれないご縁を紡いでくださったことに、心から感謝しています。

AI-HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
オノ さま

私がアイホールに初めてお世話になったのは、私が演劇を学べる場所を探していたときに、「演劇ラボラトリー」というアイホールの演劇体験講座事業を見つけたのがきっかけです。

以来、該当講座の『14RELATIVES:14人の親戚』公演や、『伊丹の物語 プロジェクト:ビューティフル・サンデー』に参加させていただき、その他数多くの公演を観劇させていただきました。

演劇という、一人で行うことが困難な文化事業において、同じ目的を持った人々が集まれる場として、とても重要な役割を果たしていた施設だったと感じています。

閉館はとても惜しいですが、最後のその瞬間まで文化の灯を点き続けていただければと思います。

大変お世話になりました。ありがとうございました。

お疲れさまでした。

AI-HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
池川貴清 さま

気づけばアイホールにばっかりいた気がします。ずっと京都にいたのに。乗り換えもあるし遠いんですけど、もう何往復もしてますから、どの乗り場で、何番扉で降りれば最短だとか、いちいち把握してます。あと電車の中ですること（台本読みとか、資料とか、それとは関係ない本読むとか）も決まってくるし。阪急電車で伊丹につくまでの時間が好きでした。今日はスマホでこれを書いてます。あと印象深かったのは、初めて鏡前を用意してもらったことです。あれは『サッカバカナ』（2018）という公演で、あんなふうにはじめて鏡の前に名札を貼ってもらって、僕はそれまでの演劇人生で初めて「役者になった」感じがしました。うれしかったです。今でもすぐ覚えています。



AI-HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
町田康典 さま

アイホール演劇ラボラトリーに応募したのが2018年度の演劇ラボラトリー空晴プロジェクト。その公演で自身の初舞台がアイホールになりました。10ヶ月という長い間、仲間と一緒に公演に向けて取り組んでいくことがとても楽しく、貴重な経験でした。2019年度の演劇ラボラトリー木ノ下歌舞伎プロジェクトと2020年度の上田一軒+村角太洋プロジェクトにも連続で参加させていただいて、本当に貴重な時間だったと思っています。この演劇ラボラトリーでの経験が今現在も引き続き演劇に携わっている原動力となっています。



AI-HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
柳田恵子 さま

私は今、劇団ユニット WOW!!で演劇に携わっています。その全ては、2021年3月アイホールでの「演劇ラボラトリー上田一軒+村角太洋プロジェクト「14人の親戚」から始まりました。「広報いたみ」でワークショップ受講生募集の記事が目にとまり、全くの未経験にも関わらずただ、やってみたい！の気持ちだけで飛び込んだのです。当時は自分のことで精一杯で夢中で稽古していたことを思い出します。その後2025年10月には劇団10周年記念公演で再びアイホールに帰ってくることができました。始まりから終わりまで大変お世話になり、本当にありがとうございました。演劇ラボラトリーがなければ今こうしてたくさんの仲間に出会うこともなかったでしょう。心より感謝いたします。アイホールは私の中の大切な大切な宝物です。

AI-HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
大川朝也 さま

私が初めてアイホールを訪れたのは2019年8月。ニットキャップシアターさんの『チェーホフも鳥の名前』の観劇だったらしい。3時間の舞台だったが、疲れよりも満足感が勝っていたことを覚えている。覚えているもんだなあ。2022年には劇塾に通い、舞台にも立った。何の知識もない私を一から鍛え、1人でも歩んでいける自信をくださった。あの頃はこんなことになるなんて考えもしなかった。今もまだ私の中で劇塾は続いている。「形あるものはいずれ失われるが、形が無くなっても続いていくものもある。」最後にそんな教えを授けてくれているようにすら思える。いつか自主企画公演で舞台に立つ日を夢見ていました。ありがとうございました。



AI-HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
大路絢か さま

愛知にいた時にもアイホールという名前を聞きました。いい芝居が上演されるホールとして関西で有名なんだと教えてもらい、大阪に拠点を移したらずばアイホールに立つことを目標にしようと帰郷しました。初めてあの高い天井を見上げてグレーのやわらかい床に立てた時は、本当にすごくうれしかった。そこからうれしいだけではなく時間もたくさん過ぎて、今年度の終わりに8度目のアイホールに立たせてもらえます。一人分だけで歩いてきた私の世界が大きく広がった場所でした。有り難いことでした。本当にありがとうございました。



写真：井上嘉和

AI-HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
毛利あかり さま

思い返すと、私の役者としての道筋は、2023年の『どくりつこどもの国』から開けたように思います。芝居に出なければただの人、それは今も変わりませんが、あのとき繋いでいただけた縁が、アイホールの歴史の一部に加わった経験が、夕陽射す借景が、いつも役者という生き方を選ばせてくれます。そこで表現を共にする人とも出会い、ご縁に恵まれ、ユニット初の公の場もアイホールでした。アイホールという場所に織り重なる時間のなかに少しでもいられたこと、きっと、とても幸福でした。



AI-HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
音さま

高校生の時、3年間アイフェスでお世話になりました。今振り返ると、いちばん青春していたし、とても幸せな時間だったと感じます。

閉館してしまうのは、とても悔しく寂しいですが、あの場所で起こったこと、あの場所にアイホールが存在したことは一生忘れません。大好きで大事な場所でした。ありがとうございました。

AI・HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
若旦那家康さま

印象に残る手がけた公演、観た公演も多々あるけど、当時ハイバイの制作を

していたキナダの三好さんの制作ワークショップを受講したことが今の自分にも生きています。

手がけている作家が戯曲賞を受賞できるようになる。巒(※)

※ハイバイの制作ワークショップのタイトル「肉巒(にくひだ)のような存在」より



AI・HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
わたなべみさこさま

ごまのはえさんが講師の「昔話でお芝居をつくってみよう」に2016年と2017年に参加しました。伊丹の民話を元に、民族楽器を用いて効果音作りをしたのが新鮮で楽しいものでした。2018年に小原延之さんが講師の「自分史をセリフにしてみよう」に参加。高校演劇部顧問をしていた頃、台本作りに四苦八苦していた部員の苦労がこの時初めて理解できました。その後、自分史の会に加入させていただき、2022年にリーディング公演「ビューティフル・サンデー」で、自分の脚本もまさかの舞台化していただきました。一生の思い出です！本当にありがとうございました。

AI・HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
加藤直子さま

ランニングシアターダッシュ「胸騒ぎ」

私はこの舞台を観て、照明家になりたいと思いました。

照明効果って、こんなに凄いんだ、と教えてくれた作品でした。

アイホールの天井の高さ存分に使った、素晴らしい照明。

AI・HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
佐々木裕さま

焼酎亭一門会のファンでたくさん観に行かせていただきました。演者さんの間近な席で落語を見られる臨場感がやみつきになり通いました。演者の皆様の個性、パフォーマンスが爆発し、これぞライブ！を体感しました。当然の如く、演者さんの劇にも興味が湧き、色々な舞台を観に行くようにもなりました。そんなきっかけをつくってくださった会場のアイホールさんには心から感謝です。

また、いつも電話で予約を入れさせていただく時のスタッフの方々のご対応が素晴らしく、それだけで「いいホール」と思えます。3月で閉館というのは誠に寂しい限りですが、伊丹にはこれからも通います！ありがとうございました！！

AI・HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026

Message from  
みやしたかなさま

「どくりつこどもの国」初めてアイホールに関わらせていただいた作品でした。

恥ずかしながら今までアイホールを知らず、こんなにいい施設があるのかととても驚いたのを覚えています。

ワークショップなど、企画も数多く企画されており、なぜもっと早く知らなかったのかととても悔しかったです。

職員の皆様もとても優しく丁寧で、友人がオーディションの際書類の提出が期限ギリギリになってしまうと、問い合わせていたのを横で見えていましたが、とても丁寧な対応をして頂いていたのをみて、感銘を受けたのを昨日の事のように覚えています。

AI・HALL  
ARCHIVES 出逢いの劇場  
1988-2026